

すずかんの

医療改革の「今」を知る

「東京ライフ」から共に医療政策をつくっていきましょう。

第46回

い よいよ選挙が迫ってきました。医療費のあり方を大きく変えうる数少ないチャンスです。

これまで医療費は削減の一端をたどってきました。診療報酬は過去4回のマイナス改定で1割近く切り下げられています。このため8割の公立

病院と4割弱の大学病院は赤字に陥り、医療崩壊を加速させてきました。公立病院の存廃は地域最大の政治課題であり、救急をはじめ診療科単位での閉鎖は後を絶ちません。

診療報酬と医療崩壊の関連性を如実に示すデータがあります。2002年の診療報酬大幅引き下げを引き金に、医療機関では資格を必要としない従事者が10万人程度、雇用を削られているのです。これは医療機関の収入減により、病院側に確保義務が課せられ

ていない従事者がリストラ対象となったため。その業務は看護師や医師にのしかかり、多忙さに拍車をかけました。体力、気力の限界を超えて、現場を立ち去る医師らが続出、看護師も過酷な医療現場での勤務を敬遠しています。

この状況を打開するには、医療機関、特に産科、小児科、外科、救急など不採算部門を担う病院の収入を最低でも1〜2割引き上げ、必要な人材を補充することが先決です。国立大学病院については、3分の1にまで削減された運営費交付金をかつての水準まで戻すべきでしょう。

日本は医学研究体制でも各国から後れをとっています。新型インフルエンザのワクチン開発は急務ながら、携わる医師・研究者の数も十分とはいえません。がんやアルツハイマーなど振興するべき研究分野は多いにもかかわらず、主要7大学医学部で新たに基礎研究に進む卒業生は65人程

度にまで激減、日本の医学研究は風前の灯です。

さて、国民の皆さんは、医療にまつわる情報の大半を、マスメディアを通じて受け取られているかと思えます。しかし、本来伝えられるべきことが十分伝わっていないこともしばしばです。そこで「東京ライフ」というウェブサイトを立ち上げました (<http://www.tokyo-life.jp>)。専門家を含め国民の皆さんと、医療の深刻な現状等さまざまな情報を共有しあい、政策を一緒に創っていかれたらと思います。ぜひご覧ください。

医療現場危機打開・再建国会議員連盟幹事長、中央大学公共政策研究科客員教授、参議院議員
鈴木 寛



すずき・かん ●通称すずか
ん。1964年生まれ。慶應義
塾大学SFC環境情報学部助
教授などを経て、現職。教
育や医療など社会サービス
に関する公共政策の構築が
ライフワーク。